一般国道４５号　岩泉町茂師地区の事故対策について

～平成１８年8月期実施、交通挙動調査とアンケート調査結果（報告）～

一般国道４５号　岩手県岩泉町茂師地区の事故対策について、対策効果の検証として行った、「交通挙動調査（走行速度・走行軌跡調査）」、「効果についての利用者アンケート調査」の結果について、お知らせします。

経　緯

■一般国道45号 岩手県岩泉町茂師地区では、平成16年より2年連続して正面衝突による交通事故が発生し、7名の重軽傷者、3名の尊い命が失われました。

■三陸国道事務所では、平成１７年１２月に各関係機関（自治体、警察、交通安全協会、道の駅）で構成する「茂師地区事故対策懇談会」を設立、2回の検討会を経て、現地における事故対策を実施するとともに、事故原因の一因として考えられた「居眠り」の対策として、道の駅「たろう」「たのはた」において、夏場の観光シーズンに「早めの休憩を促す啓蒙活動」を実施しました。

■今回の報告は、事故対策の効果を把握するために実施した、「交通挙動調査（速度・軌跡調査）」、「アンケート調査」の結果について報告を行うものです。

■今までの経緯

○平成１６年　7月３１日　死亡事故発生

○平成１７年　8月　1日　死亡事故発生

○平成１８年１２月１２日　第1回　茂師地区事故対策懇談会

○平成１８年　3月　7日　「計画的・積極的な休憩の広報活動」（道の駅「たろう」「たのはた」）

○平成１８年　3月２３日　第2回　茂師地区事故対策懇談会

○平成１８年　8月１１日　「計画的・積極的な休憩の広報活動」（道の駅「たろう」「たのはた」）

注：今回の利用者アンケート調査は、啓蒙活動とあわせて行いました。

一般国道45号　茂師地区事故対策

事故要因

・高い走行速度でカーブ区間に進入
　→茂師改良事業による線形向上により走行速度が上昇
・連続するカーブ区間
　→センターライン寄りの走行軌跡が車両相互事故を助長
・居眠り運転
　→過労運転が居眠りを誘発

■事故対策（現地における事故対策）



■薄層舗装
走行速度の抑制や漫然運転の覚醒



■ドットライン
はみ出し、走行速度の抑制、線形誘導



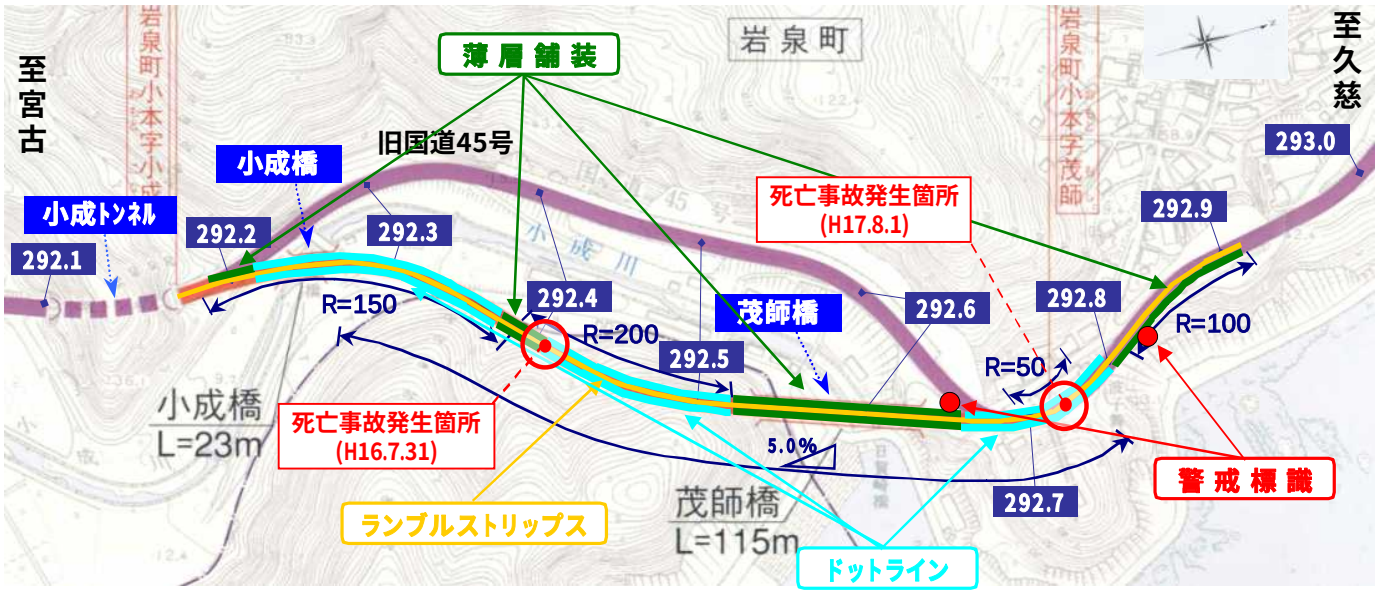
■ランブルストリップス
はみ出し抑制や漫然運転の覚醒



■警戒標識
カーブ認識・注意喚起



■案内標識
道の駅の距離表示で、
計画的な休憩を促す。



■事故対策（「道の駅」における啓蒙活動）

計画的・積極的な休憩の広報活動



平成18年3月7日　道の駅「たろう」啓蒙活動

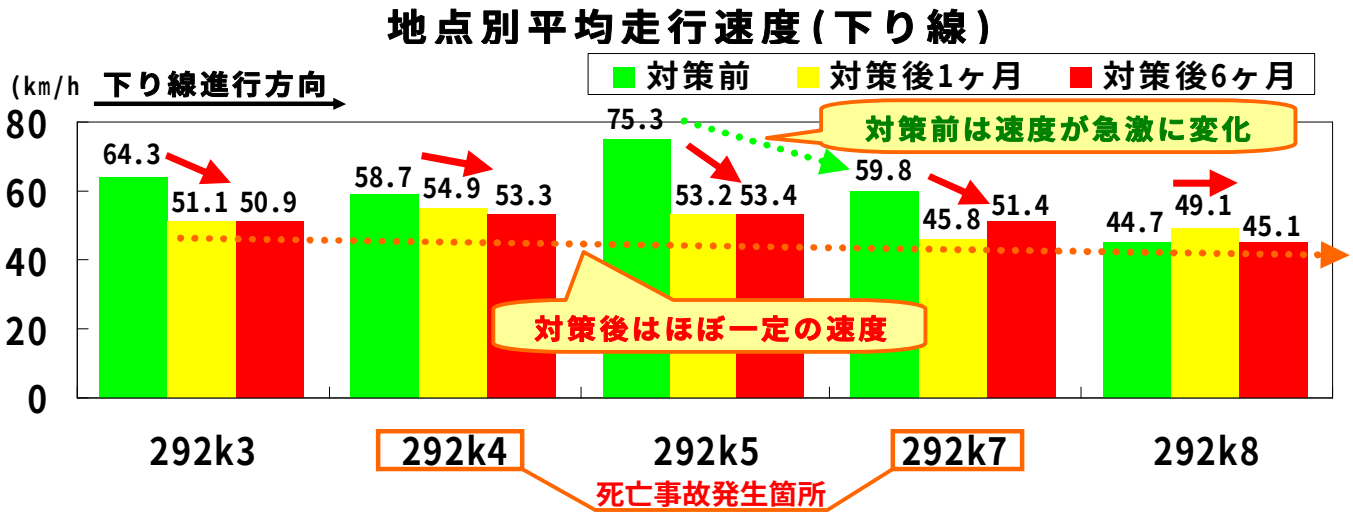


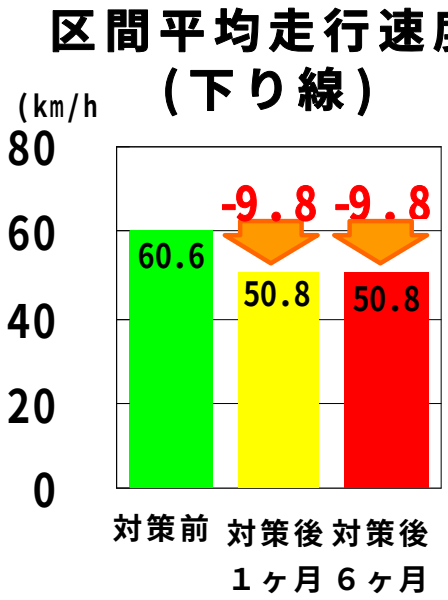
平成18年8月11日　道の駅「たろう」啓蒙活動

交通挙動調査結果

■走行速度が約2割低下（下り線区間平均：9．8km／h低下）

対策前と比較し、事故対策後6ヶ月経過しての走行速度についても、約2割の低下が認められ、**効果は持続している**と考えられる。





■走行軌跡が大幅に改善（センター寄り走行車両の割合が減少）

センターライン寄りの走行車両割合

（対　策　前）
16.8 ～ 17.7%

大幅減少

（対策後1ヶ月）
0.5 ～ 0.8%

効果継続

（対策後6ヶ月）
0.2 ～ 0.5%

利用者アンケート調査

アンケート調査は、平成１８年８月１１日に、道の駅「たろう」「たのはた」で行われた、「ドライバーの皆様に計画的･積極的な休憩を促す広報活動」と同時に行われたもので、当活動及びアンケート調査は、「茂師地区事故対策懇談会」において提案されたものです。

アンケート結果

アンケート調査は、通行車両を対象に、インタビュー形式で行われ、アンケート総数は１５４名という結果でした。被験者の出発地としては、岩手県沿岸地域が１０４名、その他４９名と、夏場の観光シーズンということもあり、県外からの利用者も多く含まれていました。

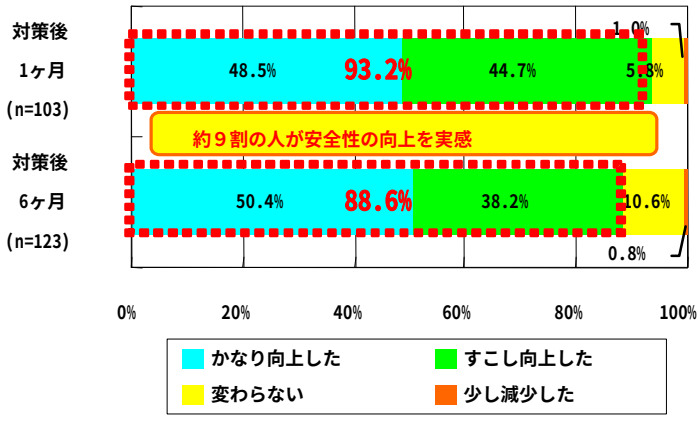
なお、事故対策の評価については、対策1ヶ月後（平成１８年3月）に実施したアンケート調査との比較も実施しております。

■事故対策の評価（図ー1）

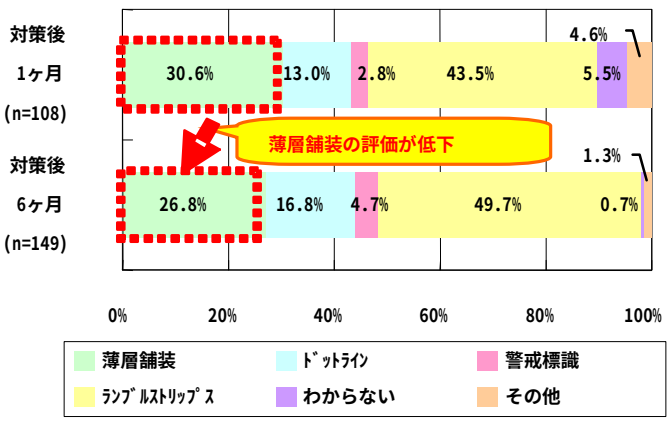
約9割の方々が、「走行環境の安全性の向上」について、「かなり向上した」「すこし向上した」と評価しています。なお、事故対策1ヶ月後と6ヶ月後の評価は、ほぼ同評価となっています。

■利用者から高評価を得た事故対策（図ー2）

「ランブルストリップス」が約5割の方々より高い評価を得ました。また、「薄層舗装」「ドットライン」についても、ランブルストリップスに次ぐ評価を得ています。



図ー1　走行環境の安全性の向上



図ー2　高評価を得た事故対策

■事故対策により改善された運転行動（図－3）

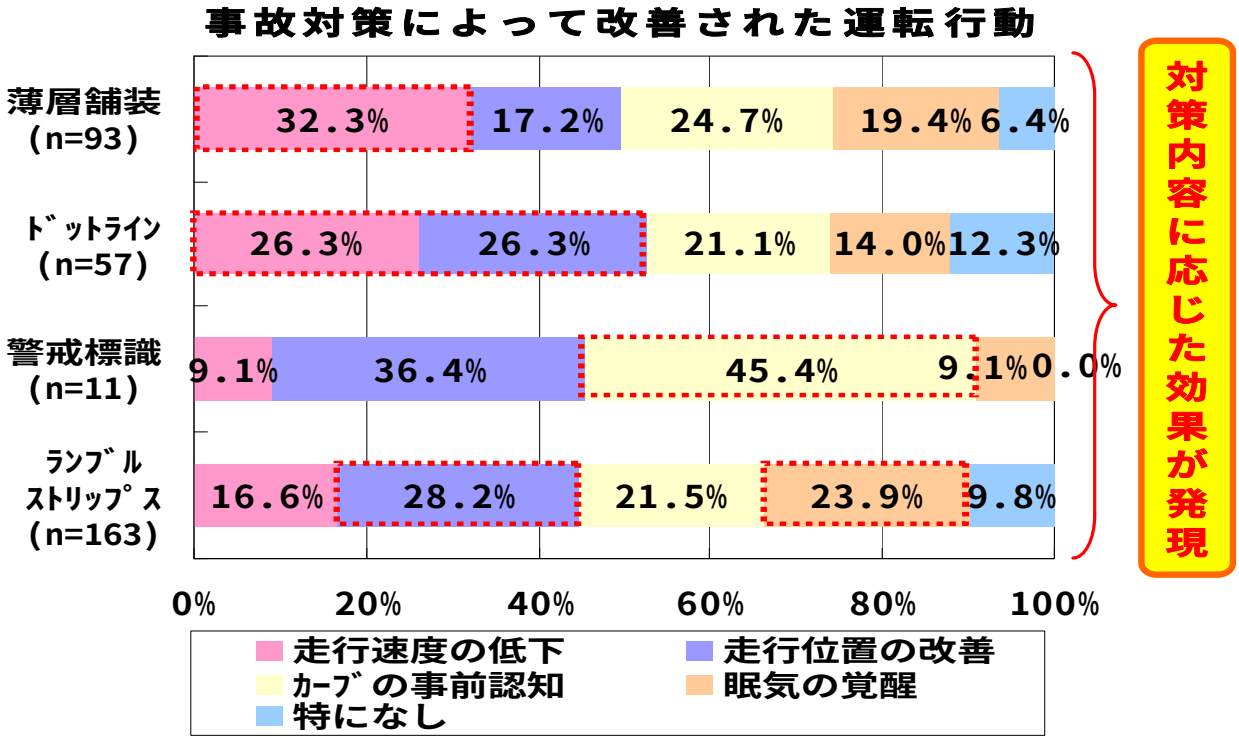
■対策内容に応じた「運転行動の改善」が図られました。

・薄　層　舗　装 → 走行速度の低下

・ドットライン → 走行速度の低下、走行位置の改善

・警　戒　標　識 → カーブの事前認知

・ランブルストリップス → 走行位置の改善、眠気の覚醒



※　上記の数値は、対策後1ヶ月と対策後6ヶ月の合算値

図－3　事故対策により改善された運転行動

利用者アンケート調査結果のまとめ

■事故対策の効果としては、約9割の方々が走行環境の安全性が向上したと回答しており、その効果は6ヶ月経過後も持続している。

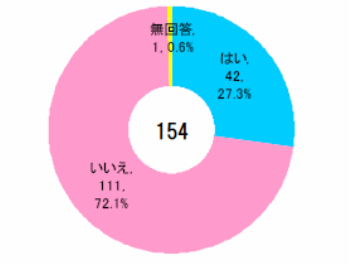
■対策として、「ランブルストリップス」「薄層舗装」「ドットライン」の順で評価されている。

■アンケート内容より、各々の対策に応じた効果が発現されていると考えられた。

居眠り運転について・・・追加アンケート調査

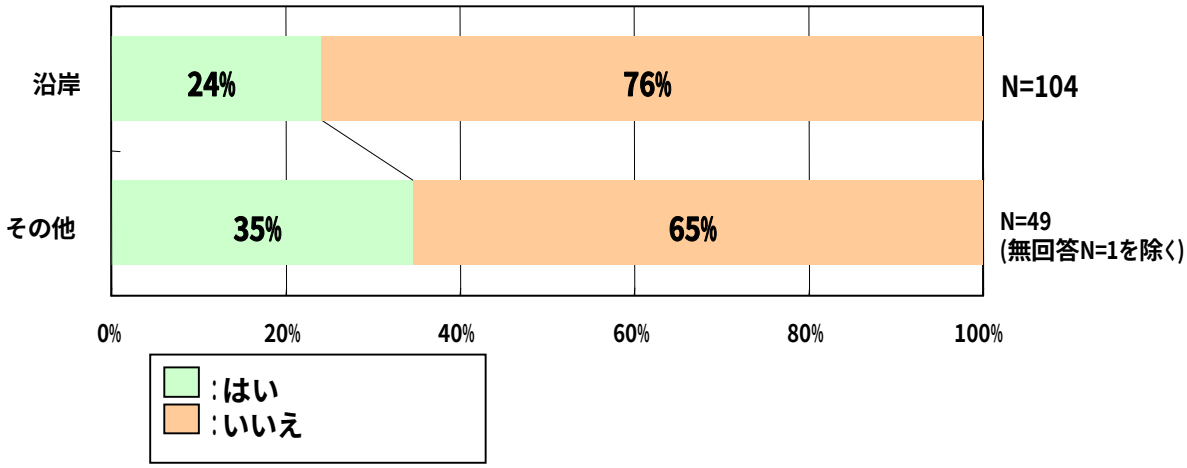
当該区間を含む国道45号が、「居眠り」しやすい路線であるかを、アンケートにおいて確認。その要因と、「眠気」を感じた場合の利用者対応などから、今後の課題等について検討。

■今日の運転中にあくびや眠気がおきましたか



■全体では、約3割の方々が眠気を感じている。

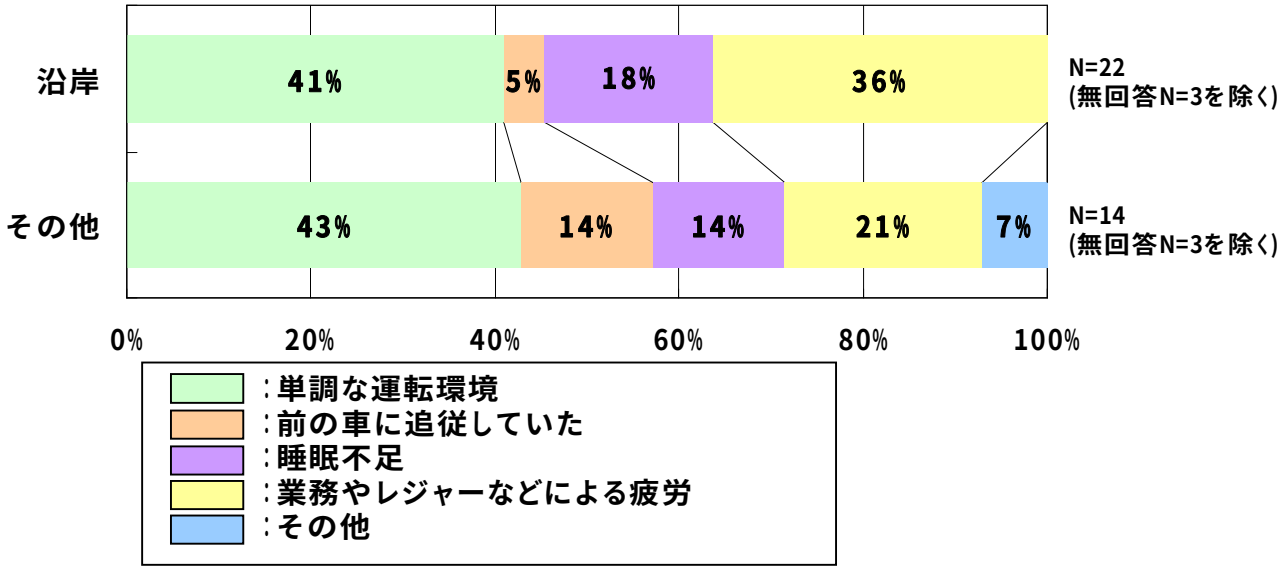
■沿岸地方の方と比較し、その他（県外含む）の方々が「眠気を感じる」方が多い結果となった。



■あくびや眠気が起きた方々の原因

■沿岸地方、その他の地方とも、「単調な運転環境」という回答が大勢を占めた。

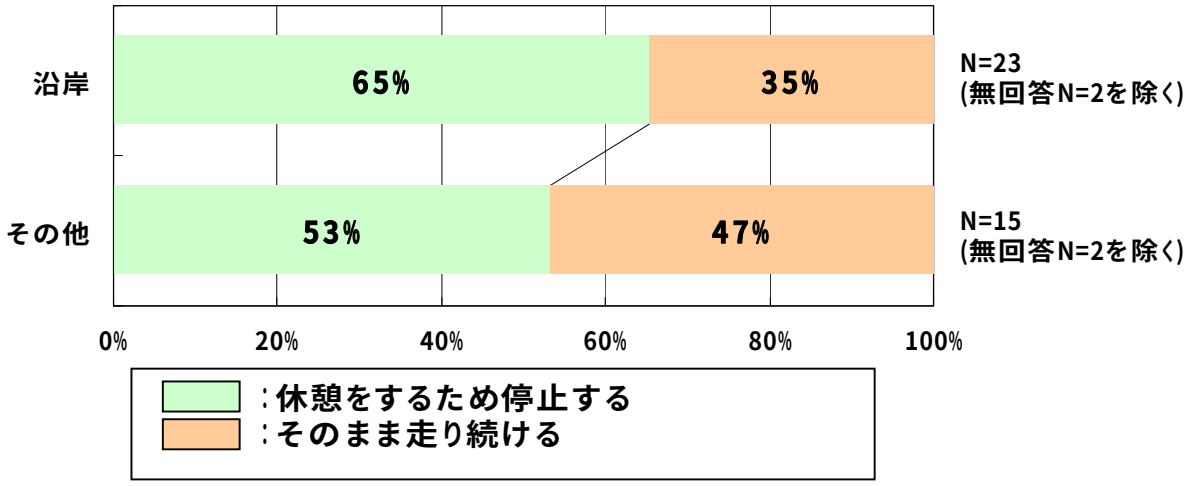
■「単調な運転環境」については、沿岸地方より、その他の地域の方々が強く感じている。



■あくびや眠気が起きた時、どのように対応していますか

■沿岸・その他地方とも、「眠気」を感じた時、休憩を取る方々が5割以上という結果となった。

■その他地域の約5割の方が、眠気を感じても、「そのまま走り続ける」と回答しており、三陸沿岸地方の道路状況を理解せず、眠気をがまんして走ることは危険と考えられた。



居眠り運転について・・・アンケート調査結果のまとめ

■アンケート調査より、当該区間利用者の約3割が「眠気」を感じている。

■原因としては「単調な運転環境」という回答が多く、特にその他の地域の方々が、強く感じている。

■眠気への対応として、全体的に5割以上の方が「休憩をとる」と回答しているが、その他地域から三陸沿岸地域に訪れる、約5割の方々が「そのまま走りづつける」と回答しており、三陸沿岸の道路状況を理解せず、眠気をがまんして走ることの危険性が感じられた。

■以上より、夏場の観光シーズン等、その他地域から来訪者が増える時期に「計画な休憩の啓蒙活動」「道の駅の利活用」が重要と考えられる。